

生き抜く力

体験活動は人づくりの原点
意図的・計画的に創出を

57社
の活動を掲載

Contents

文部科学大臣賞

アサヒビール(株) 1~2
日本の環境を守る若武者育成塾
~半年かけて計画・行動・発表~

審査委員会特別賞

石坂産業(株) 3
くぬぎの森環境塾
(「体験の機会の場」の教室)
~総合体験の「村」を用意~

審査委員会特別賞

森ビル(株) 4
ヒルズ街育プロジェクト
~実際の「街」を舞台に多様な取り組み~

なぜ企業の体験活動なのか ... 5~7

広がる企業の体験活動 9~10

審査委員会奨励賞

(株) テレビ東京 5
「テレビ東京の校外学習」
~ひとつの番組が放送されるまで~

東芝テックソリューションサービス(株) 5
体験型出前授業(「体験! レジ係」)

日本電信電話(株) 5
NTTドリームキッズ~ネットタウン2013~

ALSOK(総合警備保障(株)) 5
ALSOK あんしん教室
「人の命を助けるってなんだろう」編
(救急救命体験授業)

ヤマト運輸(株) 5
高校生経営セミナー

西日本鉄道(株) 5
にしてつキッズしごと体験スクール 2013

電源開発(株) 6
エコ×エネ体験プロジェクト

協和発酵キリン(株) 6
東北バイオ教育プロジェクト

コニカミノルタ(株) 6
新入社員による出前実験授業
「コピー機のしくみを学ぼう」

カルビス(株) 6
「カルビス」こども乳酸菌研究所

(株) ヤクルト本社 6
ヤクルトグループの出前授業
「おなか元気教室」「ウン知育教室」

武田薬品工業(株) 7
「わくわく自然ふれあい隊」

キャノン(株) 7
キャノンジュニアフォトグラファーズ

(株) ミールケア 7
耕作放棄地を活用した農業体験・食育活動

日本電気(株) 7
NEC 世界子ども自然クラブ

ハウス食品グループ本社(株) 7
ハウス食と農と環境の体験教室

サントリーホールディングス(株) 8
サントリー水育(みずいく)「森と水の学校」

三菱電機(株) 8
自然から学ぶ、環境・社会貢献活動
「里山保全プロジェクト」
「みつびしでんき野外教室」

ライオン(株) 8
学童歯みがき大会

ニフティ(株) 8
「インターネットを使うときに
忘れてはいけないこと」
~小学校向け出前授業

(株) 日本テレビアート 8
「アート de GENKI!」
折り紙クリスマスツリープロジェクト

日本製粉(株) 8
為末大学食育学部

(株) 伊藤園 8
第二十五回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞

文部科学大臣賞

日本の環境を守る若武者育成塾

アサヒビール(株)



半年かけて 計画・行動・発表

「自ら考え、課題を抽出し、解決策を立案する。多様な利害関係者を巻き込みながら、解決策を実行していく」

これは企業や団体が最も必要としている人材である。こうした「生き抜く力」を社会に出る前から育むことが期待されている。アサヒビールとそのグループは「日本の環境を守る若武者育成塾」と呼ぶ体験活動によって、志の高い高校生を育てる取り組みを平成18年度から続けている。

若武者育成塾の特徴はその枠組みにある。冒頭で示した人材を育てるために、どのような体験活動を用意すべきかを検討した結果、参加者の選抜から実際の体験、アクションプラン立案、実践、成果発表に至る、半年間のプログラムを用意した。

小論文の審査によって選抜された7校のチームは夏合宿を通じて足尾銅山、渡良瀬遊水池、同社工場を見学、観察する。それらの体験を基に、地元に戻って取り組む環境活動の計画を立てる。8月から12月にかけて、計画した環境活動を実施、若武者ブログを通じて発信するとともに活動報告書を毎月提出する。12月に7チームが再度集まり、互いの成果を発表、質疑応答をして締めくくる。

「アクティブラーニング」(主体的・協働的に学ぶ)の典型と言えるプログラムである。これだけの活動を滞り無く進めるために、アサヒビールは社外の専門家や地元団体と協力して進行を管理するとともに、社内外に向けた情報発信に取り組んだ。チームのアシスタントとして社員を公募したほか、環境対策の見学場所として自社工場を利用するなど、本業を活用している。本活動は平成27年度に10期目の節目を迎える。大学生になった卒業生に育成塾の運営に参画してもらう仕組みを検討するという。

なおアサヒビールは複数の体験活動を進めており、阿蘇の自然と風を体験し、風力発電所を見学する「アサヒ・POWER風の子塾」を平成18年度から開催している。



進行管理

- ・体験学習を専門とする法人と協働
- ・地元団体の協力を受け、下見や安全対策を実施
- ・参加者引率者に事前調査し、課題を抽出
- ・実行計画や実施報告に対し、環境教育の専門家が助言



教育的工夫と成果

- ・夏合宿の現場体験で得た学びを踏まえ、アクションプランを計画し、それを実行に移す機会を設けた
- ・バランス良く力を付けられるように配慮。多面的かつ総合的な見方（渡良瀬川の生態系を上流中流下流で体験）、コミュニケーション能力（初対面同士でグループ活動）、批判的に考える能力（プランの発表、実行、他者からの助言、を通じて自分のプランを見つめ直す）など
- ・参加者全員に自己評価アンケートを実施、すべての項目で値の向上を確認した

情報発信

- ・参加高校生が自らの取り組みについて「若武者ブログ」で発信
- ・環境活動に熱心な高校 2700 校、過去に参加した高校、などに参加を呼びかけた

社内理解

- ・社内広報を実施し、チームアシスタントを公募
- ・アサヒグループ企業 4 社が協力
- ・環境対策の見学受け入れを工場に要請

本業活用

- ・環境対策を直に見る場として自社工場を利用
- ・社員有志がチームアシスタントとして高校生をサポート



審査委員会特別賞

くぬぎの森環境塾（「体験の機会の場」の教室）

石坂産業(株)



総合体験の「村」を用意



ISHIZAKA

<http://www.kankyo-school.com/>

体験活動の主題として環境や自然を掲げる企業は多い。例えば、山林や河川へ出向き、自然に触れる。田畑で田植えや種まきから収穫までを体験する。リサイクル工場を見学する。石坂産業の「くぬぎの森環境塾」はそれらを総合的に体験できる場を提供している。

埼玉県入間郡でリサイクル事業を手がける同社は施設内に「三富今昔村」と名付けた15万8000平方メートルの場を設けた。ここでは、建設廃棄物の資源化設備の見学、雑木林の散策、水車による粉挽きの見学と石臼体験、といった三つの体験が一日でできる。またブルーベリーや柿、栗、ジャガイモの収穫体験も可能になっている。

総合体験と並ぶ特徴は地域密着の徹底である。くぬぎの森環境塾は埼玉県から「体験の機会の場」として認定を得ており、事業計画を毎年、県に提出する。埼玉県の小中高校から生徒を受け入れているほか、親子による体験ツアー、地元の児童が参加する落ち葉掃き体験、観光商工課との連携など、様々な取り組みがある。

体験をサポートする「環境ナビゲーター」の役割は環境カウンセラー、森林インストラクターなど21人の専門家に依頼している。

同社は「従業員の意欲と能力を最大限に引き出し、地域・社会との関わりを大切にしながら、顧客に対して高付加価値・差別化サービスを提供する経営」を標榜しており、三富今昔村やくぬぎの森環境塾を社会貢献にとどまらず、CSV（共通価値の創造）の取り組みにしていこうという。

審査委員会特別賞

ヒルズ街育プロジェクト

森ビル(株)



実際の「街」を舞台に 多様な取り組み

「街育」とは同社の造語で、実際の街を生きた教材として使い、主に小学生に向けて街づくりのノウハウや街の魅力を伝え、将来の都市のあり方を考えてもらう体験活動プログラムの総称である。平成19年度から小学3～6年生と保護者が参加できるプログラムを複数用意してきた。平成25年度は一般公募で1384人の参加者を受け入れた。

アークヒルズ、六本木ヒルズ、虎ノ門ヒルズなど同社が開発を手がけた街で提供する「街育」は、いずれもレクチャー、街の探検、ワークショップで構成される。その特徴は同社が掲げる街づくりの三つのテーマにそった様々なプログラムを体験できること。例えば「安全・安心」をテーマにしたプログラムでは、ビルの制振装置や防災センター、備蓄倉庫、震災井戸の見学、「環境・緑」では街の屋上庭園の見学、野菜などの収穫体験、「パードウオッチング、そして「文化・芸術」のテーマでは美術館や街中のパブリックアートの見学などができ、豊かな体験活動を通して、参加者がこれからの都市について自ら考えるきっかけを創出している。

同社は「街育」を社員教育や企業理念の再認識の機会としても活用し、一部プログラムの企画・運営を入社3年目の社員やボランティアで募った社員が行うなど、全社的な取り組みとして実施している。さらにテナントとして入居している企業と協力し、テナント企業の特徴を活かしたプログラムも用意、街全体で多様な体験活動を提供している。



<https://www.mori.co.jp/machiiku/>

審査委員会奨励賞 (掲載順不同)

【職業・仕事】

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

東芝テックソリューションサービス(株)

小学、高校、特別支援学校などを対象に、レジやバーコードに関する体験活動を通して、働く人・消費者・社会とのつながりや情報の活用について学ぶ機会を平成18年度から提供している。実施エリア在住のOBに声をかけ、児童の活動のサポートを依頼。このほか科学を身近に感じる体験活動も実施。



http://www.toshibatec-ttss.co.jp/ttss/csr_community.html

TV TOKYO | テレビ東京

(株)テレビ東京

「テレビ東京の校外学習」のひとつの番組が放送されるまでに、小学5年生から高校生までを対象に、テレビ番組の実際の制作工程を見学、体験してもらうプログラムを平成23年度から実施している。カメラマンやアナウンサーと対話したり、本物の機材に触れたりする機会も提供する。



<http://www.tv-tokyo.co.jp/csr/learning/index.html>

ALSOK

ALSOK(総合警備保障(株))

全国の小学校を対象に救急救命活動の出前授業を同社の現役ガードマンが制服姿で行う。児童はAEDの使い方や学び、心肺蘇生法のロールプレイを実施する。指導者の研修制度や社内マイスター制度を設けている。平成16年度より実施している、あんしん教室の新プログラムとして平成24年度より開始。



<http://www.alsok.co.jp/company/society/ansin/index.html>

NTTグループ

日本電信電話(株)

NTTドリームキッズ ネットタウン2013。小学3年生から6年生を対象に、全国6会場でNTTグループが連携した体験型プログラムを実施。参加者は新人研究員として機器接続工事、画像検索、スマートフォンでの買い物、ICタグによる荷物仕分けに取り組み。NTTが開発したプログラミング言語、情報通信の仕組み、ルールやマナーも学ぶ。平成18年度から実施。



http://www.ntt.co.jp/kids/past_event.html

Nishitetsu Group

西日本鉄道(株)



http://www.nishitetsu.co.jp/release/2013/13_035.pdf

にしてつキッズしごと 体験スクール2013。電車、バス、空港業務、水族館、ケーキ作りなど、西鉄グループの各事業を小学生に体験してもらう。体験の前に事業の特性や社員が働く上で意識していることを説明。福岡市、北九州市、太宰府市、久留米市などにある同グループの事業所や施設で平成21年度から実施している。

ヤマト運輸

ヤマト運輸(株)



<http://www.yamato-hd.co.jp/csr/society/>

高校生経営セミナー。参加希望の高校の生徒が参加し、例えば「地域活性化の企画立案」といった、ヤマト運輸の経営課題について各チームが半年程度のグループワークを行う。全国の同社社員が各チームの助言役を務める。各チームは立案した企画を同社経営陣の前で発表し、質疑応答を行う。平成18年度から実施。

なぜ企業の体験活動なのか

子供たちが企業の現場に行き、社員が働く様子を見学、仕事の一手伝う。夏休みに合宿し、大自然に触れ、企業の工場などを訪問する。一定期間、チームで研究に取り組み、成果を発表する。

こうした企業による青少年の体験活動が広がりを見せている。本冊子にまとめた各社の取り組みを見ても、体験活動のテーマは「職業・仕事」「科学・技術」「自然・環境」「生活・文化」など様々である。

多様な体験をしてもらうことを狙って、複数のテーマを組み合わせている企業もある。例えば食品メーカーの取り組みは「科学・技術」に分類したが、体験としては食育につながるため「生活・文化」の活動ともみなせる。

なぜ体験活動なのか。なぜ企業の取り組みが重要なのか。

体験活動は教育的効果が高い。幼少期から青年期まで多くの人とかわりながら体験を積み重ねることに、「社会を生き抜く力」として必要となる基礎的な能力を養う効果がある。社会で求められるコミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感

【科学・技術】



電源開発(株)

エコ×エネ体験プロジェクト

小学4～6年生とその親に向けて、人々の暮らしを支えるエネルギーと環境のつながりを体感できる1泊2日のツアーを平成19年度から実施している。舞台は奥只見(新潟県・福島県)と御母衣(岐阜県)にあるダム、発電所や森。社員が案内し、解説する。体験活動の後、森と水と電気のつながりを確認する実験親子による気づきの発表など、ワークショップを開く。参加者アンケートやプログラムアドバイザー制度によって、活動内容を見直している。



<http://www.jpowers.co.jp/econe/>



コニカミノルタ(株)

新入社員による出前実験授業「コピー機のしくみを学ぼう」

中学2年生から高校1年生を主な対象に、同社の新入社員が静電気とコピー機の関係を実験を通じて説明する出前授業を平成24年度から実施している。同時に学生時代の経験、進路選択、社会人の活動について生徒に話す。新入社員は研修で学んだ仕事の進め方を本授業の準備を通して実践する。



<http://www.konicaminolta.jp/pr/csr/demae>

人も地球も健康に



(株)ヤクルト本社

ヤクルトグループの出前授業「おなか元気教室」「ウン知育教室」

主に小学生を対象に、腸の大切さ、腸内細菌の働き、良い排便のための生活習慣などについて出前授業を平成20年度から実施している。受講した生徒に「おなか元気生活」に関する宣言をもらう。同社と全国販売会社の担当者が講師を務める。



<http://www.yakult.co.jp/knowledge/deliveryclass/>

KYOWA KIRIN

協和発酵キリン(株)

東北バイオ教育プロジェクト

岩手、宮城、福島の高校、高等専門学校6校に、約2年間をかけて、地域の課題解決につながるバイオテクノロジーを研究してもらった。バイオ燃料、多糖バイオマス、河川の水質浄化、植物工場といった研究テーマは生徒が自ら選んだ。計画立案、調査、実験、成果のまとめ、発表までを支援。同社の研究者も参加した。



<http://www.kyowa-kirin.co.jp/kizuna/science/>

カラダにピース
CALPIS

カルピス(株)

「カルピス」 こども乳酸菌研究所

小学4～6年生を対象に、乳酸菌に関する出前授業を平成19年度から実施している。乳酸菌を顕微鏡で観察するほか、乳酸菌に関するアイデアを考え、発表してもらう。専用のウェブサイトを用意し、アイデアを掲載するとともに乳酸菌に関する深い情報を提供。講師やアシスタントは社内公募により決める。



<http://www.calpis.co.jp/peace/kids-labo/>

創造力、変化に対応する力、異なる他者と協働する能力などを育むために様々な体験活動が不可欠である。

中央教育審議会の答申『今後の青少年の体験活動の推進について』(平成25年1月21日)には、こういった趣旨が書かれている。この答申を受けて「青少年の体験活動推進企業表彰」は始められた。

「様々な体験活動」を提供するためには産官学の連携が欠かせない。体験活動の推進は企業にとつて、未来を担う青少年の育成に資する社会貢献であり、欲しい人材を自ら育てることもである。先に列挙した力を持つ人材を企業は今、切望している。

体験活動をより良いものにしていく一助として、表彰審査の着眼点を説明する。何と言っても、教育としてどう工夫し、どう成果を上げたかが重要である。知識や価値観を一方的に伝えるのではなく、課題に気付けさせるなど多角的な視点を持つように工夫されていることが望ましい。

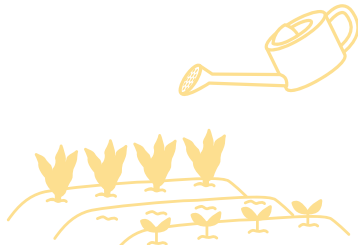
文部科学大臣賞を受賞したアサヒビールは教育の枠組みがしっかりしており、リーダーシップ育成を含め、アクティブラーニングのモデルに成り得ると評価された。平成26年11月20日に下村博文文部科学大臣が中央教育審議会に諮問した「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」においてもアクティブ

審査委員会奨励賞 (掲載順不同)

【自然・環境】

 武田薬品工業株式会社


武田薬品工業(株)



<http://www.takeda.co.jp/kyoto/>



「わくわく自然ふれあい隊」
京都市の小学4～5年生と保護者を対象に、植物の播種、育苗、経過観察、収穫、加工、処分を体験してもらったために、全5回の通年プログラムを平成23年度から提供している。同社の京都薬用植物園で開催。ワタやアイについて継続して体験するとともに、軟膏作り、ヨモギ餅作りといった各回ごとの活動も実施する。次年度に参加者の同窓会を開く。

 株式会社ミールケア

(株)ミールケア

食育をテーマにした劇団を結成、全国の幼稚園、保育園などで公演する。



http://www.mealcare.co.jp/index_village.html

耕作放棄地を活用した農業体験・食育活動
長野県や関東の幼稚園・保育園児を対象に、ジャガイモやサツマイモ、トウモロコシの植え付けや播種、収穫、皮むき、調理といった体験活動を平成25年度から実施している。長野市内の耕作放棄地と廃業したレストランを利用。このほか社員有志が

Canon

キヤノン(株)

者が自分の発見や感動を伝える発表会を開く。



http://web.canon.jp/scsa/jr_photographers/

小学3～6年生を主な対象として、全国の小学校などで身近な自然を撮影する写真教室を平成16年度から開催している。同社社員やプロカメラマンが講師になり、参加者は貸与されたデジタルカメラを使って校庭や公園で撮影する。撮影者が選んだ写真をプリントし、撮影者が自分の発見や感動を伝える発表会を開く。

 House

ハウス食品グループ本社(株)



<http://housefoods.jp/activity/topics/shokuiku/>

ハウス食と環境の体験教室
小学生以上の子供とその家族を対象に、全国6カ所で農作業や野外調理、自然観察を体験する教室を平成21年度から開催している。同一家族が1年を通じて4～5回の教室に参加し、田植えや種まきから草取り、稲刈りや収穫までを体験する。

NEC

日本電気(株)



<http://jpn.nec.com/community/ja/resources/nature.html>

NEC
世界子ども自然クラブ
日本、マレーシア、中国、台湾といった様々な生活環境に暮らす小学生に地域の自然や文化を体験する機会を平成20年度から提供している。参加者はテレビ会議システムを使って交流し、視野をグローバルに広げる。

ラーニングへの言及があった。

工夫をこらして体験活動を企画できたら、いよいよ実践である。成果を上げ、活動を続けていくには、社内外への情報発信、活動の進行管理、本業の活用がカギを握る。

参加者を増やしていくには、活動の内容や成果を社外に発信しなければならぬ。社内の協力を得るために社内向けの説明も求められる。

体験活動は参加者、見学地や宿泊地の担当者、指導者などを巻き込んだ取り組みであり、関係者の意見や助言を聞き、常に改善しながら、進行させる必要がある。こうした進行管理は企業が日頃から実施していることである。

教育とはいえ、企業は自社の本業を思い切り活用してよい。企業が本業のために抱えている人材や資産を使わない手はない。青少年に本業を体験してもらうことはキャリア教育の一種である。

本業を担う社員が青少年に接し、助言する。社員にとって貴重な経験であり、その点に気付いた企業は体験活動の支援役を社員から公募したり、若手社員に義務付けたりしている。青少年を育てる体験活動を推進することで、企業は社員を育てられ、自社を強くできる。(青少年の体験活動推進企業表彰事務局)



<http://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/philanthropy/case/field/ecology/satoyama/index.html>

自然から学ぶ、環境・社会貢献活動「里山保全プロジェクト」「みつびしでんき野外教室」

全国の事業所で従業員とその家族が周辺の公園や森林、河川など身近な自然を回復する活動に平成19年から取り組んでいる。並行して、整備した場所を「教室」に見立て、子供たちが生き物の偉大さや自然の循環を学ぶ野外教室を開いている。

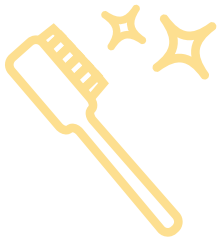


<http://suntory.jp/mizu-iku/>

サントリー水育(みずい)く「森と水の学校」

白州(山梨県)、奥大山(鳥取県)、阿蘇(熊本県)にある「サントリー天然水」のふるさとを利用し、小学校3～6年生と保護者を対象に、森の探検や水に触れる体験、天然水工場見学などの体験プログラムを平成16年度から提供している。

【生活・文化】



<http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/oral/>



学童歯みがき大会

健康行動の確認、歯ぐきのチェック、歯のみがき方といったプログラムを歯科医師会館のスタジオから、全国891、海外11の小学校にインターネットで配信する。5万人を超える小学生が視聴。同大会を形式を変えながら昭和7年から開いている。



<http://www.ntvart.co.jp/csr/>

「アートdeGENKI」折り紙クリスマスツリープロジェクト

千葉県の亀田総合病院の小児病棟にクリスマスツリーを立て、入院している子供や病院スタッフに折り紙でオーナメントを作ってもらい、それをツリーに飾る活動を手がける。美術・照明を担当する同社の技術を活かし、社長をリーダーにした全社横断のプロジェクトとして平成25年度から実施。



<http://www.nifty.co.jp/csr/edu/demae.html>

「インターネットを使うときに忘れてはいけないこと」小学校向け出前授業

同社の若手を中心とした社員が、主に小学校5年生を対象として、インターネットを正しく安全に使うための出前授業を平成20年度から実施している。さらに情報モラル教育の一環として、先生や保護者に向けた、子どものネット利用啓発講座も展開。



<http://www.itoen.co.jp/new-haiku/>

第二十五回伊藤園 おくいお茶新俳句大賞

五七五のリズムで自由に表現する新俳句のコンテストを平成元年から開催している。第25回には45万人が応募、うち42万人が小中高校生。上位2000句の入賞作品は同社の商品パッケージに掲載される。



<http://www.nippon.co.jp/hiroba/tamesue-college/>

為末大学食育学部

小学6年生と保護者に向けた特別授業を、小学校5校で平成25年度から実施している。為末大氏によるハードル、こぼたてるみ氏による食育の授業に加え、夢を達成する方法を話し合う授業を用意し、これら3授業によって、心と体の健やかな成長を目指す。

広がる企業の体験活動 (掲載順不同)

【職業・仕事】

情報技術開発 (株)

こどもプログラミング教室

小学2年生から中学1年生を対象に、教育用プログラミング言語を教え、ゲームを作って発表してもらう。仕事で使う言語を使って社員が同じ内容の作品を作り、プロの仕事のやり方を伝えている。JBアドバンス・テクノロジー (株) との共催。

<http://www.tdi.co.jp>

ユーピーエス・ジャパン (株)

中学生の職場体験

中学生を対象に同社の集配センターで、配達伝票処理、仕分け、X線検査補助、資材発送といった輸出入貨物業務を幅広く体験してもらう。参加者への修了証には同社社長が直筆で署名する。平成24年度から実施。

<http://www.ups.com/jp>

【科学・技術】

積水化学工業 (株)

“住まいと環境”学習プログラム

中学生を対象に、家庭・技術の授業の一環として平成19年度から実施している。7時限のプログラムのうち6時限は教師の授業、1時限がセキスイハイムの模型を使った協同授業。同社社員がコーチとして参加する。

https://www.sekisui.co.jp/csr/contribution/home_env/index.html

キッコーマン (株)

キッコーマンしょうゆ塾

小学校3～4年生を対象に、しょうゆの作り方や魅力、働きを分かりやすく解説する出前授業を平成17年度から実施している。原材料や工場で見られないしぼりかすを持ち込み、触ったり香りをかいだりし、授業の最後に「おいしく食べる」ことについて考えてもらう。講師養成講座を受けた同社社員が出講する。

<http://www.kikkoman.co.jp/corporate/life/shokuiku/activity/school>

キューピー (株)

マヨネーズ教室

主に小学校に向けた出前授業を平成15年度から実施している。マヨネーズの原料、乳化の仕組み、容器の工夫を学んだ後、マヨネーズを手作りし、乳化による状態変化を確認、工場製のもの食べ比べする。講師を務められる社員の社内認定制度を設けている。

<http://www.kewpie.co.jp/company/activity/food/03/index.html>

東日本旅客鉄道 (株)

出前授業～鉄道と情報ネットワークの秘密を探れ！～

小学校5～6年生を対象に、鉄道を題材にして情報ネットワークの仕組みを理解してもらう授業を平成22年度から実施している。ワークシートなどを使い、表現力や思考力の育成を目指す。鉄道を題材にして環境問題を教える出前授業も行っている。

<http://www.jreast.co.jp/eco/report/2014.html>

(株) デンソー

小水力発電アイデアコンテスト

東海北陸6県の高等専門学校7校の学生が1年間をかけて、地域の自然特性を活かした小水力発電装置の設計・製作・設営に取り組み、アイデアを競う。デンソー製発電機を使用、同社社員が各校を訪問し、製作などを支援する。

<http://www.denso.co.jp/ja/csr/social/social/eco/m-hydro-contest/index.html>

ウエルシア薬局 (株)

こども向け薬剤師体験教室

主に小学生を対象に同社店舗で、処方箋の説明、軟膏作り、錠剤や散剤の分包など、薬剤師業務の一部を体験してもらう。薬剤の代わりにグミやドリンクパウダーを使うが分包機は実機を利用し、同社社員が指導する。平成25年度から実施。

<http://www.welcia-yakkyoku.co.jp/>

ソニー生命保険 (株)

ライフプランニング授業

仮想の家族によるライフプランニングを体験することで、中学生や高校生に、夢に向かって努力することの大切さを学んでもらう。同社のライフプランナーが講師となり、業務で実際に使っているシミュレーションソフトを活用して授業を行う。平成18年度から実施。

<http://www.sonymife.co.jp/volunteer/lp/>

(株) 西一工務店

敬老の日 工務店で土壁塗りにチャレンジ

近隣に住む親子や祖父母と孫を同社に招き、珪藻土を25センチメートル四方の額にコテで塗り、手形や貝殻で飾りを付けてもらう。参加者は左官体験を通じ、自然素材に触れられる。平成24年度から実施。

<http://nishiichi-koumuten.com/>

東亜建設工業 (株)

鶴見・川崎地区の臨海部埋立の歴史と防災についての学習

横浜市鶴見区内の小学4年生を対象に、同区内の埋立の歴史説明、埋立ゆかりの施設見学、液状化発生の仕組みと防止対策を学ぶ実験、といった機会を提供。埋立事業を手がける同社の施設を利用し、若手社員が説明する。

<http://www.toa-const.co.jp/company/csr/relation.html>

KDDI (株)

KDDI ∞ Labo (ムゲンラボ) 「∞ Jr. ハッカソン & アイデアソン」

小学生から高校生を対象に、スマートフォンや携帯電話で使えるアプリケーションの開発やサービスの企画を体験してもらう。会場は同社オフィスで、社員が実際のアプリケーション開発の事例を紹介する。

<http://time-space.kddi.com/special/specialreport/20130910/index.html>

(株) NTT データ

NTT データ流キッズワークショップ

同社社員と小学生の子供向けに、親の仕事紹介、理科実験、コンビニ店員体験、ITセキュリティ教室といった複数のプログラムを平成21年度から提供している。共働きの社員が協力し、お互いの子供の面倒を見る。

<http://www.nttdata.com/jp/ja/corporate/csr/>

NEC ネットズエスアイ (株)

南極くらぶ

南極昭和基地の通信ネットワークを運用し保守するために、南極越冬隊に参加した同社社員が小学校に出向き、南極における仕事や生活、気候や天体、生物について説明する。南極で実施した実験も紹介する。

<http://www.nesic.co.jp/csr/contribute-education.html>

大栄環境グループ

リサイクル現場の体験学習

同グループ各社のリサイクルセンターや工場に、近隣の小中学生を招き、ごみの問題やリサイクルの仕組みを説明、簡単な作業を体験してもらう。平成12年から実施。

http://www.dinsgr.co.jp/environment/con_child.html

【自然・環境】

(株) ミダック

富士山エコツアー

浜松剣道連盟の子供と保護者が8月、富士山麓で清掃や育樹、特定外来生物に指定された植物の駆除を手がける。捨てられているゴミの多さを知ることで環境保全への理解を深める。経営層の意思により平成16年度から実施。

<http://www.midac.jp/archives/1165>

【生活・文化】

(株) フジテレビジョン

食育出前授業「ハロー！どっこくん」

保育園、幼稚園児を対象に、アナウンサーによる大型紙芝居、野菜を中心にした食材あてクイズ、腸の働きを促す体操、などで構成された授業を平成21年度から実施している。

<http://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/>

(株) 玄米酵素

墨田区学校支援ネットワーク事業 家庭科の授業・料理教室

以前から実施してきた食育活動を墨田区の小学校向けに実施した。食事の大事を伝える授業では発酵食品の効果を体験できる実験を取り入れた。ご飯を鍋で炊いて試食する料理教室も開催。

<http://www.genmaikoso.co.jp/cultivate/seminar/kouen.asp>

ヤマハ (株)

手づくりギター教室

小中学生が段ボールなど身近な材料を使ってオリジナルデザインギターを製作し、合奏する教室を平成14年度から開催している。運営は大学生のボランティアが担当し、同社で楽器の開発、設計、生産などに関わる社員が技術サポート役で参加する。

http://jp.yamaha.com/about_yamaha/csr/community/next_generation_upbringing/

リーフラス (株)

1 日体験活動

幼稚園児から小学6年生までを対象に、化石発掘、水のろ過装置作りや空き缶による炊飯など災害体験、釣りと捌き方体験といった機会を平成23年度から提供している。同社社員のパラリンピックメダリストらが中学校で講演する活動、スポーツスクール会場美化活動なども実施。

<https://www.leifras.co.jp/>

SMBC コンシューマーファイナンス (株)

お金に関する体験プログラム

未就学児から小学生に向けて、お金の流れを体験できるゲームやペットボトルを利用した貯金箱作りの機会を全国18カ所の顧客サービス拠点で平成23年から提供している。家計管理やローンクレジットなどに関する高校生向けの出前講座も開く。

<http://www.promise-plaza.com/about/educate#anchorMovie>

日清食品ホールディングス (株)

「～子どもたちの夢、応援します～ 東北の未来へ RUN RUN！プロジェクト」

日清食品グループ陸上競技部の選手が東北三県の小学校を訪問、発明や発見や夢、希望を持つ大切さを学ぶクリエイティブシンキング教室と、スポーツの基本である正しい走り方を学ぶランニング教室を開催。

https://www.nissin.com/jp/about/csr/hyakufukushi/011_runrun/

トヨタウッドユーホーム (株)

おえかきコンテスト

栃木県内の幼稚園・保育園に通う園児らを対象に、作品を公募、同社の支店を利用して応募全作品を展示する。平成18年度から実施。

http://www.toyota-woodyou.co.jp/news_release/20141107.html

(株) マルコシ

親子農業体験塾「志路・竹の子学園」

小学生と親が4月から11月にかけて、農作物を育て、村人と交流する。住宅リフォーム業であることを活かした工作指導も行う。平成16年度から実施。

<http://www.marukoshi.jp/write/japanist/>

(株) 海産物のきむらや

伊平屋村・境港市教育交流事業 / サマースクール&ウィンタースクール

同社のもずく産地沖縄県伊平屋村と本社工場のある鳥取県境港市の小学5年生を対象に、両地域で夏と冬に体験活動を行う。対照的な自然環境や生活に触れるとともに、産地と工場を見学。平成8年度から実施。

<http://www.mozuku-1ban.jp/csr/>

三菱地所 (株)

都市と農山村をつなぐ 空と土プロジェクト

グループ社員および家族、同社グループが分譲・管理するマンションと注文住宅の契約者、丸の内エリア就業者などを対象に、山梨県北杜市で開墾、間伐、米・野菜づくり、獣害対策電柵設置などを体験できるツアーを平成20年度から実施し、都市と農山村が元気になる社会を目指している。

<https://soratsuchi.com/>

ディスカバリー・ジャパン (株)

いきものカレッジ in 福島

福島市内の小学生を公募し、2泊3日のキャンプ体験イベントを沼尻高原で開催した。テントの設営、昆虫観察、ハイキングに加え、食事、新聞作り、話し合いも屋外で実施。また開演前の上野動物園に親子を招待し、朝の動物の様子を見るツアーも開催。

japan.discovery.com/

(株) 日比谷アメニス

現場 CSR

同社が建設工事におよび完成後の公園や緑地を利用し、周辺住民を対象に花植えイベントなど公園に触れる機会を創出、地域コミュニティ形成のきっかけづくりをする。該当現場の担当者に加え、社内から多部門多世代の社員を動員している。平成22年から実施。

<http://www.amenis.co.jp/company/csrreport2014.html>

東京海上日動火災保険 (株)

「Green Gift」プロジェクト 国内環境保護活動

お客様が保険契約時に約款などを紙ではなくウェブサイトで確認する方法を選択された場合、紙資源の使用量削減額の一部を寄付し、国内の環境保護活動に役立てている。

<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/>

新日鉄住金エンジニアリング (株)

地域共生型ガーデン「エンジ村」での植物栽培・収穫体験

同社北九州寮にある地域共生型ガーデンで、子供を中心とした地域住民と共に、ハーブや果物の植え付け、花の苗植え、収穫といった体験活動を平成24年度から実施している。

<http://www.eng.nssmc.com/environment/community>

(株) ブリヂストン

ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト 自然観察会

同社彦根工場内のビオトープ施設を利用、近隣の未就学児から小学生に、絶滅危惧種カワバタモロコシの繁殖の様子など、生き物を観察する機会を提供する。

<http://www.bridgestone.co.jp/csr/soc/eco/japan/biwako/>



企業の中で青少年に多様な体験活動の機会を 青少年の体験活動推進企業表彰

平成26年度:57社から65事業の応募があり、文部科学大臣賞が1件、審査委員会特別賞が2件、審査委員会奨励賞が23件、選ばれた。本冊子は57社の優れた実践を紹介している。

表彰の目的:社会貢献活動の一環として青少年の体験活動に関する優れた実践を行っている企業を表彰し、全国に広く紹介することにより、青少年の体験活動の推進を図る。

表彰の対象:企業がCSRや社会貢献の活動として主催し、参加する青少年を公募して実施したもの。平成26年度表彰は平成25年4月～平成26年3月に実施された体験活動を対象にした。

これまでの実績:平成25年度から表彰を開始。25年度の文部科学大臣表彰は(株)リコーの「市村自然塾」。小学4年生から中学2年生が9か月間、隔週末に2泊3日の共同生活をして、農作業や星座観察などに取り組む。参加者は共に汗を流し、考え、ルールを守る体験を通じ、自ら成長する。異年齢の青少年に長期にわたって体験を提供する点などが評価された。

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taiken.htm



文部科学省

平成27年2月

担当: 文部科学省スポーツ・青少年局青少年課

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL:03-5253-4111(代表) <http://www.mext.go.jp/>